

公表

事業所における自己評価総括表(児童発達支援)

事業所名	発達支援室クオール鳥羽		
保護者評価実施期間	令和6年10月1日		~ 令和6年10月31日
保護者評価有効回答数	(対象者数)	9人	(回答者数) 7人
従業者評価実施期間	令和6年10月1日		~ 令和6年10月31日
従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
事業者向け自己評価表作成日	令和6年10月31日		

分析結果

	事業所の強み()だと思われること より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子どもの特性に合わせた療育の提供ができること。	・子どもをよく観察しカンファレンスを重ね、一人ひとりに何が必要かを検討し実施している。	・保護者の方や関係機関との連携を深め、子どもの成長を見守り療育を提供していく。
2	・常勤児童指導員及び保育士が5名で必要な場合は個別対応にも応じることができる。	・共通認識ができやすく、責任の所在もはっきりするので、療育の質を高く保てる。	・学習会や研修を重ねて子どもの発達状況に応じた療育を提供していきたい。
3	・アットホームな雰囲気子どもと保護者がいつでも相談しやすい。	・誰もが相談しやすいよう子どもの様子や頑張り保護者に報告し、子どもが褒めてもらえる機会を増やしている。	・これからも、子どもや保護者とのコミュニケーションを大切にしていく。
4	・グループの中に小児科医院があるので、医療機関との連携が取りやすい。また、必要な場合は、発達検査を受けることもできる。	・保護者との相談の中で医療機関への相談が望ましい場合は、受診の紹介をして不安を解消できるようにしている。	・保護者の方との面談を実施する中で、どのようなことに対して不安やご心配になっておられるのかを理解できるように努めていく。
	事業所の弱み()だと思われること 事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・玄関に段差があること。	・段差と坂が急なため見守り、サポートの強化をしている。	・階段の上り下り時の介助・見守りサポートを常に行っている。
2	・戸外での活動ができにくい。	・近くに子どもたちが利用できる公園等がないため、戸外での活動に制限がある。	・職員の人数が確保できる時に、歩きや車で公園等に出かけている。
3	・保護者同士の交流の機会が少ない。	・働いておられる方も多く、交流の場の設定が難しい。	・ご希望される方もおられるので、交流会を設定していく。